

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区 名	生野区
学 校 名	北巽小学校
学校長名	長井 博和

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和7年4月17日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・北巽小学校では、第6学年 31名

令和7年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語の平均正答率は、全国66.8%、大阪府65%、北巽小58%（全国比87%、大阪府比89%）領域別には大阪府の中で比べた場合、「話す・聞く」領域は94%、「書く」領域は94%、「読む」領域は89%であった。平均正答率、領域別結果ともに令和6年度の対全国比、大阪府比を下回っていることが分かった。

算数の平均正答率は、全国58%、大阪府58%、北巽小52%（全国比・大阪府比90%）領域別には大阪府の中で比べた場合、「数と計算」領域は95%、「図形」領域は74%、「測定」領域は99%、「変化と関係」領域は96%、「データの活用」領域は93%であった。令和6年度の対全国比、大阪府比と比べると、平均正答率は向上し、領域別結果も「図形」領域以外は大幅に向上していることが分かった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕
成果…「話す・聞く」「書く」領域の問題については比較的できており、「書く」領域の問題については、大阪府の正答率を上回る問題もあった。
課題…「読む」領域の習得に課題があり、「情報の扱い方に関する事項」についても特に課題があることが分かった。
また、第Ⅳ区分率(29.0%)についても、昨年度(26.5%)を2.5%上回り、第Ⅳ区分率層も増えている。
〔算数〕
成果…昨年度より、領域別の結果が「図形」の領域以外全て10%以上向上した。
また、第Ⅳ区分率(22.6%)についても、昨年度(32.2%)を9.6%下回り、大きく改善されている。
課題…「図形」の領域に課題があり、特に面積の求め方を説明するような問題の正答率が低い。
〔理科〕
成果…平均正答率は大阪府55%、北巽小48%と7%下回っていたが、「思考・判断・表現」領域の問題は大阪府の平均正答率と2%差で比較的できていた。
課題…「知識・技能」領域の問題の平均正答率は大阪府より12%下回っており、基本的な知識の習得に課題がある。

質問調査より

成果
・「自分にはよいところがある。」への肯定的な回答が、全国より12.1%、大阪市より6.6%高い。
・「先生はあなたのよいところを認めてくれる。」への肯定的な回答が、全国より29.1%、大阪市より22.9%高い。
・「人の役に立つ人間になりたい。」への肯定的な回答が、全国より16.9%、大阪市より15.7%高い。
・「人が困っているときは、進んで助けている。」への肯定的な回答が、全国より16.4%、大阪市より12.3%高い。
課題
・「読書は好きですか。」への最も肯定的な回答が、全国より5.1%、大阪府より7.3%低い。
・「算数の勉強は得意ですか。」への最も肯定的な回答が、全国より9.4%、大阪府より8.5%高いのに対し、「国語の勉強はよくわかりますか。」への最も肯定的な回答は全国より2.5%、大阪府より4.1%低い。

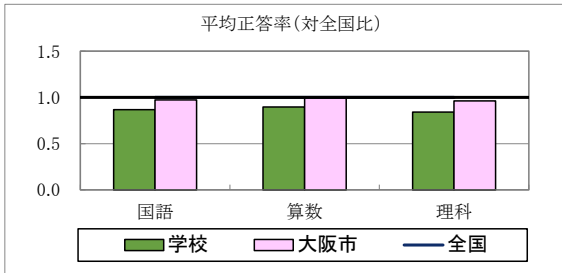
今後の取組(アクションプラン)

●国語では、次の5つの取り組みによって、3領域全て（特に「読む」領域）の平均正答率をあげる。①読みの流暢性を高める「MIM」の活用。②学校司書との連携による読書活動の充実。③考えを深め、広げるための話し合い活動・自分の考えを書く時間の確保。④簡単な読解問題の継続的な実施。⑤リーディングスキルを意識した授業プランの検討。
●算数では、次の5つの取り組みにより、平均正答率のさらなる向上、特に図形の領域への苦手克服を図る。①全国学力・学習状況調査に即した様々な問題を解く時間の確保。②「算数チャレンジ」の継続的な取り組み。③数量関係理解のための「算数カルタ」の継続的な取り組み。④具体物を用いるなどした「わかりやすい授業」の充実。⑤少人数指導やデジタルドリルを活用した個別最適化された学習環境づくり。

【 全体の概要 】

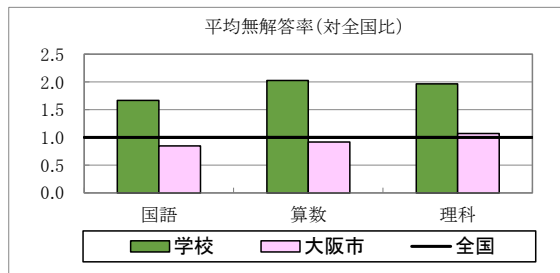
平均正答率（％）

	国語	算数	理科
学校	58	52	48
大阪市	65	58	55
全国	66.8	58.0	57.1



平均無解答率（％）

	国語	算数	理科
学校	5.5	7.3	5.5
大阪市	2.8	3.3	3.0
全国	3.3	3.6	2.8



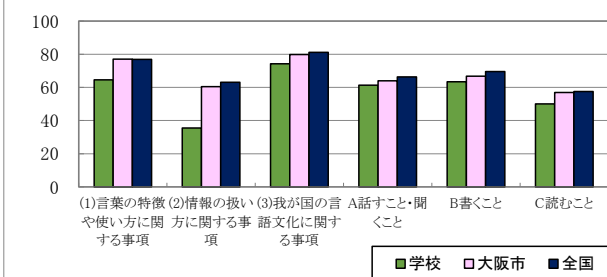
【 国 語 】

学習指導要領 の内容	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い 方に関する事項	2	64.5	77.1	76.9
(2)情報の扱い方に 関する事項	1	35.5	60.4	63.1
(3)我が国の言語文 化に関する事項	1	74.2	79.9	81.2
A 話すこと・聞くこと	3	61.3	64.0	66.3
B 書くこと	3	63.4	66.7	69.5
C 読むこと	4	50.0	56.9	57.5

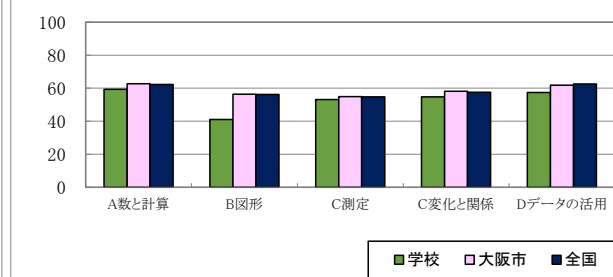
【 算 数 】

学習指導要領 の領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	8	59.3	62.7	62.3
B 図形	4	41.1	56.4	56.2
C 測定	2	53.2	54.9	54.8
C 変化と関係	3	54.8	58.2	57.5
D データの活用	5	57.4	61.9	62.6

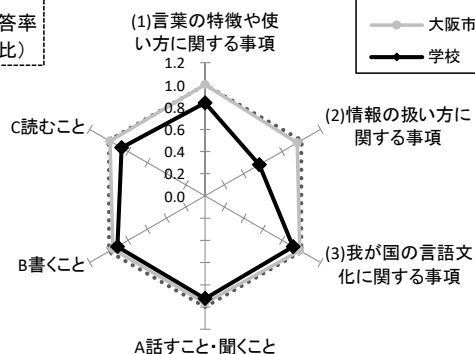
国語 内容別正答率(学校、大阪市、全国)



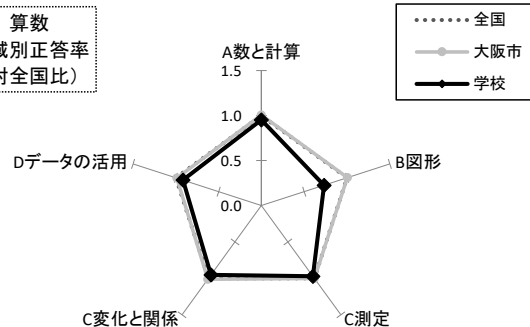
算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語
内容別正答率
(対全国比)

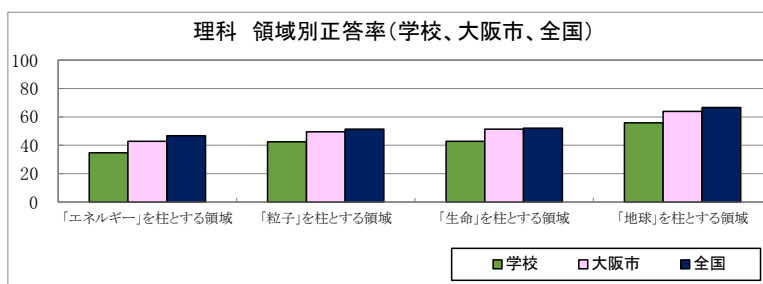


算数
領域別正答率
(対全国比)

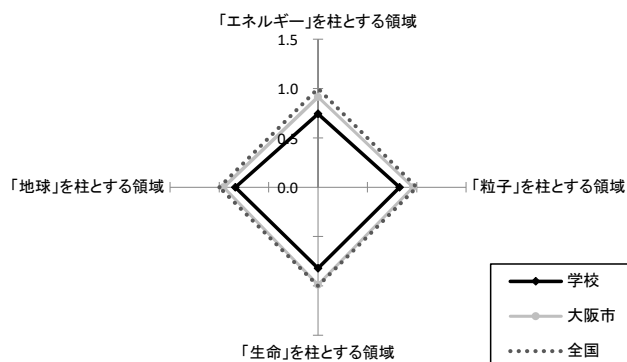


【 理科 】

学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 区分 「エネルギー」を 柱とする領域	4	34.7	42.7	46.7
	6	42.5	49.5	51.4
B 区分 「生命」を 柱とする領域	4	42.7	51.4	52.0
	6	55.9	63.8	66.7



理科 領域別正答率(対全国比)



児童質問より

質問番号

質問事項

5

自分には、よいところがあると思いますか

1

2

3

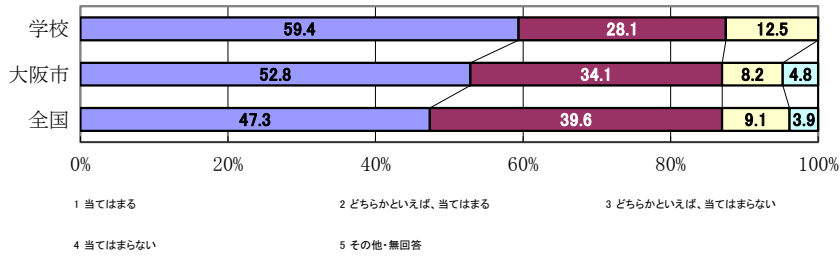
4

5

6

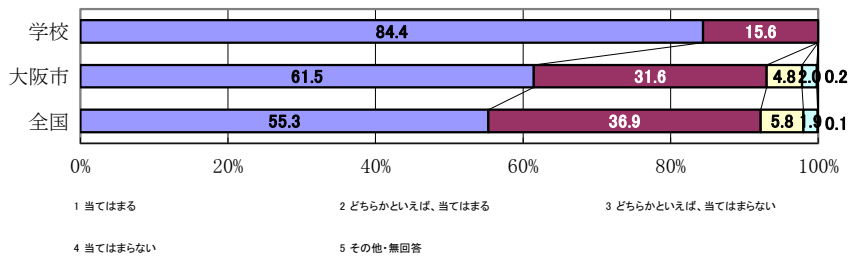
7

8



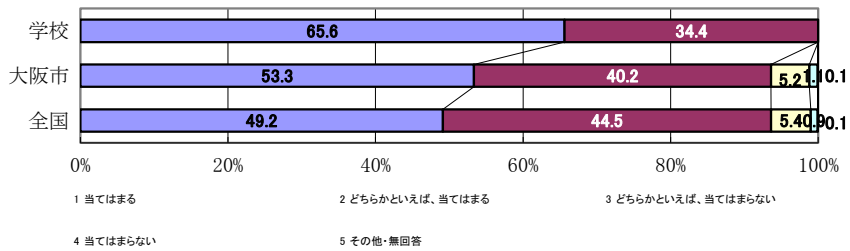
6

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



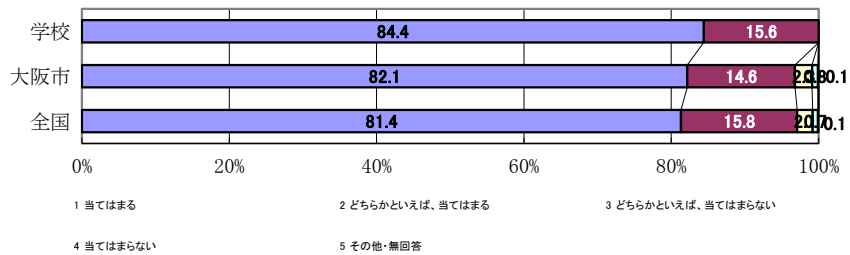
8

人が困っているときは、進んで助けていますか



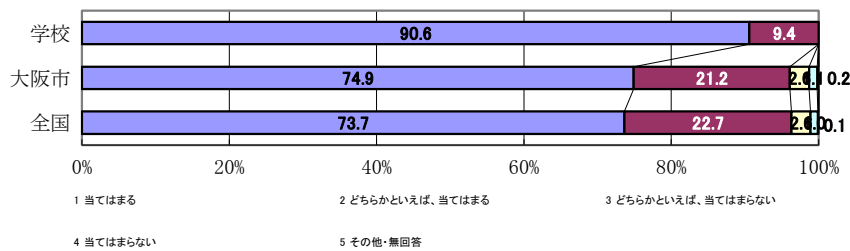
9

いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



11

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



学校質問より

質問番号

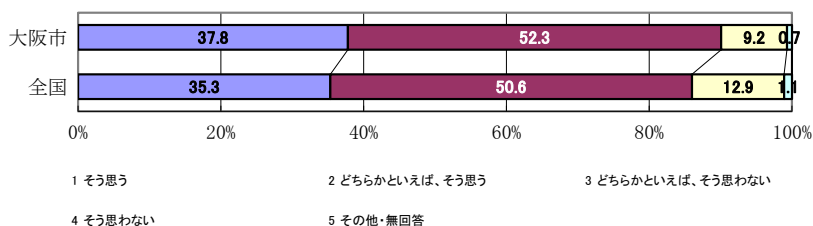
質問事項

8

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

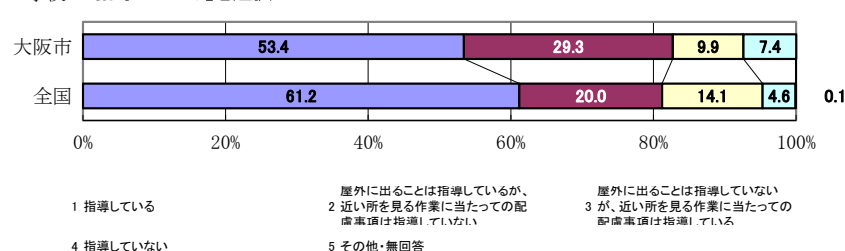
学校 「どちらかといえば、そう思う」を選択



10

近視の予防の一環として、学校の休み時間(昼休みを含む)や放課後などの時間(部活動の朝練・放課後練習を含む)に屋外に出ることや、読書や電子機器の使用などの近い所を見る作業に当たっての配慮事項(対象から30cm以上目を離す、30分に1回は目を休めるなど)について指導している

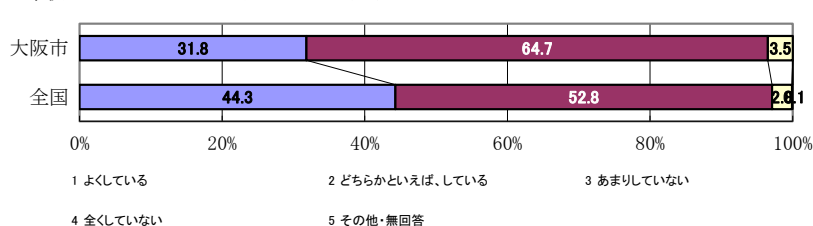
学校 「指導している」を選択



15

児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

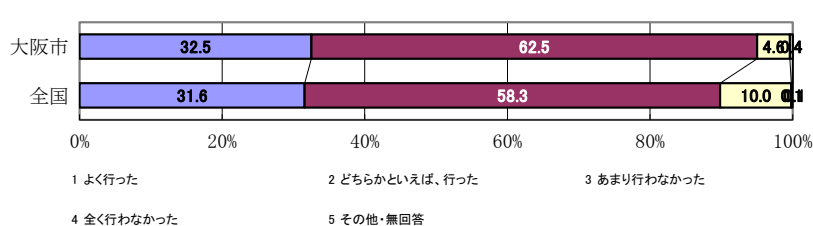
学校 「どちらかといえば、している」を選択



32

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



37

調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか

学校 「どちらかといえば、している」を選択

